



核医学検査

～負荷心筋シンチグラフィのご紹介～

心筋シンチグラフィが有用な心臓の病気

狭心症や心筋梗塞の診断には心臓の血管（冠動脈）から心臓を動かす筋肉（心筋）への血液の供給が障害されていないかどうかを知る必要があります、そのための検査が心筋シンチグラフィです。検査では心筋に特異的に集まる放射性医薬品を注射し、特殊なカメラ（ガンマカメラ）で撮影します。

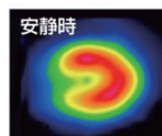
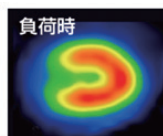


負荷心筋シンチグラフィ

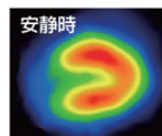
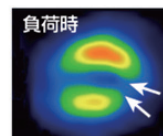
心筋への血液の供給が充分かどうかを判断するためには、心臓に負担（=負荷）をかける必要があります。負荷をかけた状態と、安静の状態（安静時）の画像を比べて診断を行います。

負荷の方法には運動によるものと薬剤によるものがあります。どちらの方法が適しているのかは、患者さんの様々な条件を考慮して決定されます。また、患者さんの状態によっては、検査当日に負荷の方法が変更になる場合があります。

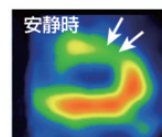
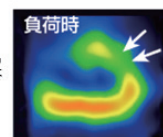
正常例



狭心症



心筋梗塞

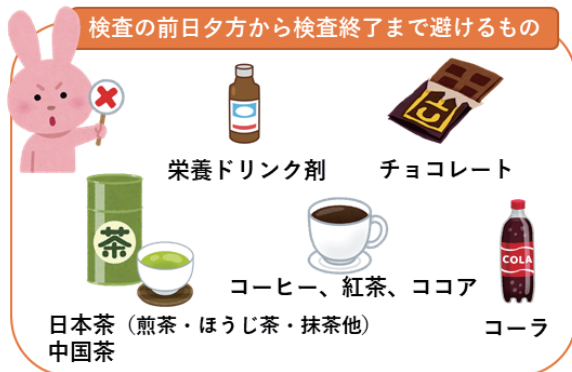


薬剤負荷検査を受けられる方への注意事項

お茶、コーヒーなどのカフェインを含む飲み物は、心臓に負担をかける薬の効き具合に影響が出ることがありますので、検査終了後までお控えください。また、気管支喘息のある方など、患者さんによってはこの方法による検査を受けることができません。必ず医師の指示に従ってください。



検査の前日夕方から検査終了まで避けるもの



検査の前日・当日含め飲んでかまわないもの



負荷心筋シンチグラフィは開始から終了まで4時間ほどの検査となります。ご不明な点はスタッフが対応致しますのでお気軽にお声がけください。

